

編集後記

4月の桜と新入生を待つ季節となりました。2013年度最後の月報のお届けです。

今号は、砂山充子氏の「ジェルメーヌ・ティヨンとニュース・カタラー—20世紀を生きた二人の女性たち」と、矢吹芳洋氏の「高校生の政治参加能力形成とシティズンシップ教育—神奈川県立高校におけるシティズンシップ教育を事例に一」の二本です。

一本目は、ナチドイツによって同じ収容所に収容されていたフランス人女性ジェルメーヌ・ティヨンと、スペイン人女性ニュース・カタラーの人生そのものが軸となり、生い立ちにはじまり、収容所から解放された後、どのように自らの経験を受け入れ、それを後世に伝えるべく行動していったのか、二人の対照的な生き方に迫っています。

二本目は、時代の変化に対応してその役割が期待されつつあるシティズンシップ教育について、特にその政治参加能力の育成に焦点をあてて論じられたものです。事例として取り上げられている神奈川県立高校の取り組みが丁寧に説明された上で、若者の政治的無関心や参加意欲の低さに対し、早くからの政治参加の経験と地域社会そのものへの参加体験が必要であることが課題として明確に述べられていました。

今回の二本の論考を読んでいて共通に感じたのは、人の身近な（実態的・実感的）経験こそが社会を少しずつ動かしていくもの、ということでした。ですが、経験するだけではダメなのです。それについて思考して、その結果を人に伝えるという思い—働きかけという行動が伴わなくてはならないのである…と思うにあたって…自身、身につまされる内容であったのは確かです。新学期に向けて、忙しさにかまけないよう、胸の片隅にしっかりとどめておきたいと思えます。

(HH)

執筆者紹介（アイウエオ順）

砂山 充子 経済学部教授

矢吹 芳洋 経済学部教授

専修大学人文科学研究所月報

第269号（2014.3.25）

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

専修大学人文科学研究所

発行者 小山利彦